

科目名・単位数	現代日本法入門 2単位	科目分類	法律系	基本科目
配当年次	1年次・春学期・昼・夜	担当教員	かわち たかし	
履修形態	選択必修		河内 隆史	
授業概要	最近コンプライアンスということが強調される。法令遵守義務と訳されるが、ルールを守れということである。法は、慣習や道徳などと並んで、社会規範つまり社会のルールのひとつである。この授業では、はじめに法にはどのようなものがあるかを概観した上で、それぞれの法分野について、できるだけ具体的な事例を使いながら、基本を学んでもらう。法分野の全般を一通り取り上げるが、特に税務や会計を学ぶ上でも関連性が強く、日常生活との関わりが多い民法や会社法にウエイトを置く。			
到達目標	法分野の全般について、基礎的な事項を修得してもらう。			
授業方法	基本的に講義形式で行う。質問を適宜受けるので、授業中でも授業後でも積極的に発言してほしい。 *今年度は緊急事態のため、第9講まではオンライン授業を実施した。第10講以降も、授業中に提示する課題についてレポートを提出すること。			
事前・事後学習	事前学習はシラバスに従って参考図書や六法の該当箇所を目を通しておくこと (90分)。 レジュメを参考にして講義内容の復習をすること (90分)。			
成績評価の方法	レポート試験40%、各講のレポート点・授業貢献度60% (4点×15回)。			
フィードバックの方法	テスト・レポートがあるときは、その解説は授業内で時間を設けて行う。			
履修上の注意	法律問題についての新聞やテレビなどの報道に関心を持つこと。			
授 業 計 画				
第1回	【法を学ぶ意義】 法は慣習や道徳などとともに社会生活のルールである。最近コンプライアンスやガバナンスという言葉をよく耳にする。現実の社会で機能する法はどのようなものがあるか。法を学ぶ意味は何か。			
第2回	【法の種類】 現実の社会で機能する法は様々に分類される。日本は制定法主義をとっており、実定法を中心に法体系を学ぶ。公法・私法・社会法、実体法・手続法とは何かを学ぶ。また制定法と判例法、法・法律・法令、命令・政令・省令・規則のちがいを学ぶ。			
第3回	【法令の構造と法令用語の基礎】 法令の構造を学んだ上で、「及び」と「ならびに」、「または」と「若しくは」、「以下」と「未満」、「以上」と「超え」など、法令用語の決まりを踏まえて、条文の読み方や法解釈を学ぶ。			

第4回	【人と法】 法律上の「人」とは何か。自然人と法人の区別。権利能力・行為能力・意思能力とは何か。法人ではない団体（組合・権利能力なき社団）についても学ぶ。それらを踏まえて、法律行為について学ぶ。
第5回	【財産と法】 財産権は物権・債権・知的財産権に大別される。このうち、民法上の財産権は物権と債権であり、それらのうち、債権は次回取り上げ、今回は物権を中心に学ぶ。
第6回	【契約と法】 債権の取得原因は主として契約である。契約の意義と種類を学ぶ。2017年に民法の債権法が大幅に改正され、2020年4月1日に施行されるので、その部分を重点的に取り上げる。
第7回	【家族と法】 親族とは何か。夫婦、親子の法律関係はどうなっているか。相続とは何か。遺言がある場合とない場合のちがいを、相続人がいない場合などについても学ぶ。
第8回	【会社の意義と種類】 会社は営利社団法人であるが、その意味は何か。株式会社・合名会社・合資会社・合同会社の4種類の会社法上の会社を比較して特徴を学ぶ。 【株主の権利義務】 株式会社における株主の地位について学ぶ
第9回	【株式会社の機関】 現代日本では圧倒的に株式会社が多い。株式会社の機関である株主総会・取締役・監査役の役割などを学ぶ。
第10回	【株式会社の決算・資金調達と開示】 会社法の決算手続と募集株式の発行等を学んだうえで、金融商品取引法における発行開示・継続開示との関係を学ぶ。
第11回	【株式会社の支配移動・組織再編】 中小企業の事業承継を学ぶ。関連して企業買収手段のうち、代表的な株式公開買付けと、合併・会社分割などの組織再編についても学ぶ。
第12回	【法令等のルール違反に対するペナルティ】 刑事責任、民事責任、行政処分、その他の法令上の処分を学ぶ。ハードローとソフトローとは何かを学ぶ。 【犯罪と刑罰】 罪刑法定主義、遡及処罰の禁止などを学ぶ。刑罰の種類を学ぶ。
第13回	【裁判と法】 裁判所にはどのような種類があるか。刑事裁判と民事裁判の手続の流れを学ぶ。
第14回	【労働法・社会保障法】 最高法規である憲法は基本的人権として生存権や労働基本権などを定める。労働三権に関する労働法の構造と内容、社会保障法の概略を学ぶ。
第15回	【法の担い手】 裁判官、検察官、弁護士、司法書士などについてその役割を学ぶ。 【まとめ】 改めて今法学を学ぶ意味とは何か。
テキスト	特に指定しないが、小型でよいので六法を持参すること（ポケット六法、デイリー六法など）。
参考図書	現代法入門研究会『現代法入門』三省堂 佐藤邦憲・茂野隆晴編『エッセンシャル実定法学』芦書房 その他、授業時に適宜推薦する。